

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年11月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1175100898
法人名	(株)メデカジャパン
事業所名	新座グループホームそよ風
所在地	352-0023 埼玉県新座市堀ノ内1-3-32 (電話)048-489-5121

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月24日

## 【情報提供票より】(平成19年10月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年7月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤	18人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.1人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	1階 ~ 3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	23,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	26名	男性	7名	女性	19名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	14名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	59歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	静風荘病院、ラビット歯科
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護事業を全国展開している法人のグループホームで、市内にも同一法人の在宅サービス事業所があり、事業所間で協力体制が取れている。管理者は病院での介護経験があり、熱意を持ってグループホームの運営を行っている。また、利用者一人ひとりの「個」を大切にしていけることをケアの中で最も重要と考えており、利用者は尊厳をもって生活できている。ホームの庭には家庭菜園が行えるスペースや日向ぼっこができるよう椅子とテーブルが置かれている。利用者それぞれの表札は、当ホームが利用者にとって大切な自分の住処であると感じられるよう工夫している。重度の認知症の方、ターミナルケアの方も継続して入居できるよう、きめ細やかなケアを提供している。当ホームが地域に根付き、ますます発展していくことを期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の交替が多いこと、人員的になかなか研修に行けないことが前回評価の課題になっていたが、業務に必要な研修には積極的に参加できる機会をつくり、また研修内容を各職員にフィードバックすることで職員全体の質の向上に結びついている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価では現状を振り返り項目別に課題を明確にし、職員間で取り組みの必要性などを十分理解している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開始しているが、参加メンバーや協議内容について、変化や進展が見られる部分もある。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族との信頼関係は形成されている。センター長が中心となって、感情表出できない利用者や、意見等を言い出せない家族への対応について折に触れ職員間で話し合っている。また、生活歴を十分に把握するため、本人に聞き取り調査を行うことなどを徹底している。入居前から密に連絡を取り合うことで不安を最小限にし、ホームに対する信頼関係を形成する工夫を行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の保育園と交流し、運動会や餅つきを一緒に行っている。また、近くの商店で買い物をする際も、利用者自身で支払いができるように店員に協力してもらうなど、少しずつ地域の協力体制が図られている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「私たちは高齢者社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく元気ですこやかなヒューマンライフを支えます」とあり、事務室に掲げている。また、利用者の「個」を意識できる場面を多く作り、「個」を大切にするようにセンター長から職員に話し、理念についての共有化を図っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアミーティングで、理念に沿った個を大切にしたケアの実践について、具体的な話し合いが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育園と交流し、運動会や餅つきを一緒に行っているが、地域活動への参加はまだ積極的に行っていない。		事業所自体が地域から孤立することなく、地域の一員として地元の活動や地域住民との交流を図るため、今後自治会への加入等の取り込みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けた具体的な検討を実施し、実践につなげる材料としている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出た家族からの意見、要望、改善点については必ず対応するようにしているが、会議の開催時間が平日の昼間ということもあり、家族の参加が難しい状況である。		運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、家族等に報告し、新たな取り組み改善点として一つひとつ積み上げていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム側、市担当者ともに業務が忙しく、現在は市との連携が取れていない状況である。		市は、市民福祉を推進するもっとも身近な自治体であり地方自治の最前線の立場であるので、充実した事業の推進のため、市との連携を図っていくことが望まれる。
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームの通信である「そよ風だより」を毎月発行し、ご家族等に発送している。その中で、担当の職員が最近の本人の様子を記入する欄がある。またホーム内に写真を多く展示し、本人の暮らしぶりが家族に見えるよう工夫している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、家族にも積極的に参加を呼びかけている。会議での家族からの意見を受け、職員は利用者の様子や動きに合わせ、家族が来ても話しかけやすい雰囲気を作るよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動で職員が交替する場合には、急なホーム内の雰囲気の変化で利用者が戸惑わないよう、利用者や職員のコミュニケーションの時間を十分に確保している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には参加する機会があるが、職員育成のための研修計画はない。研修後は研修内容の情報開示を行い、共有できるようにしている。		各職員が自らの立場、経験、地域密着型サービスについての理解や実践の習熟度に応じて、段階的に力をつけていけるよう、研修計画をたて、実践されることを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや同じ法人の職員達と勉強会を行い、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気や環境に溶け込めるよう、職員による声かけ後の表情や行動について細かく記録し、日々のケアに反映させている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員による一方的な支援ではなく、食事時や掃除など、利用者が主体的に参加できる雰囲気をつくるため、利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら一緒に生活し、利用者一人ひとりに応じた声かけをしている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のホームでの生活では、思いや意向について把握が困難な利用者に対して、会議や直接の相談により、家族から情報を収集している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向や、本人からの聞き取りや普段の言動などに留意し、「個」を尊重したケアプランを目標に介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しだけでなく、日頃から情報収集を行い、状態が変化した際には、速やかに介護保険の認定変更の検討やケアプランの見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の看護師と協働し、ターミナルケアを提供している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診のほか、希望に応じて今までのかかりつけ医への受診の支援を行っている。また、内服変更やレントゲンの結果などについて、本人や家族が共有できるよう働きかけている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた早い段階での話し合いが不十分である。		できる限り早期から家族・医師・看護師を交えて話し合いの機会を作ることを期待する。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個」を大切にするということをベースとして、丁寧に声かけを実施できている。また、個人情報については、鍵のかかる本棚で保管するように職員間で徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースをできるだけ早く把握できるよう情報交換している。また、希望をそのつど聞くようにし、利用者がその日の行動を選択できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調や精神面などに配慮しながら食事介助をしている。職員は利用者と一緒に準備や片付けを行い、食事が進むよう調理方法を工夫している。また、職員も同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じて、入浴は毎日可能である。また、利用者が入りたい時間に入れるよう配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野を把握し、達成できたら感謝の言葉を伝えるなど、利用者の意欲を高めている。また、フラワーアレンジメントのボランティアを活用することで、趣味活動の範囲を拡大している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	集団での外出の機会はもとより、一人ひとりの外出希望に対しても出来る限り対応するようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームは車の往来が激しい道路に面しているため、安全上やむを得ず玄関に施錠しているが、利用者の希望があれば外出できるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルが作成され、防災訓練も利用者と共に実施しているが、地域との連携は十分ではない。		今後、地域との関わり合いをさらに密にして、災害時等いざという時に助け合える関係を築かれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の把握はきちんと行われ、水分に関してもゼリーや寒天など用い、無理せず水分摂取できるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じることができるよう毎月掲示物や置物などを変えている。また、ホームの中央に居間と台所があるため、普通の家庭のような生活音も感じることができる。また、居間とは別に小スペースを設け、利用者同士が交流するパブリックスペースとして活用している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべての家具が持ち込めるようになっており、利用者が使い慣れたものを使用できるように配慮されている。また、各居室には仏壇等もおけるスペースが十分確保されている。		